

帯広農業高校低位段丘林内の土壌断面

2019年4月8日観察



植生： カラマツ林

0-5 cm 堆積腐植層（落葉層）

5-30 cm A層

30-35 cm AC層 樽前c (Ta-c)火山灰層 約3,000年前に降灰

35-50 cm 2A層 樽前d火山灰層の上に発達したA層

50-60cm 2C層 樽前d (Ta-d)火山灰層 約9,000年前に降灰

60-65cm 3A層 沖積層上に発達したA層

65cm 以下 大中円レキに富んだ沖積層



1枚目の写真の西側5メートル程度のところの土壌断面

0-5 cm 堆積腐植層（落葉層）

5-15 cm A層（逆光のため明るく写りすぎている。）

15-20 cm AC層 樽前c (Ta-c)火山灰層 約3,000年前に降灰

20-35 cm 2A層 樽前d火山灰層の上に発達したA層

35-50cm 2C層 樽前d (Ta-d)火山灰層 約9,000年前に降灰

50-57cm 3A層 沖積層上に発達したA層

57cm 以下 砂に富んだ沖積層（下の方ほど粗粒質）

この地点の50~60cmよりも浅い部分は、いくつかの火山灰を母材として形成された腐植質の土壌であることがわかる。Ta-d および Ta-c 火山灰が明瞭であったが、その他の火山灰(Ta-b, Ta-a など)も降灰している。

他方、下層土50~60cm以下は、レキや砂を含むことから、川の流れによって運ばれた沖積土壌であることがわかる。樽前d (Ta-d)火山灰層がその上に乗っていることから、少なくとも現在より9,000年以上古い時代に形成されたことがわかる。その後この地形面が隆起して、ここよりも川に近い部分が侵食され、現在の沖積低地面が形成された。